

I. 研究主題

主体的に学び、ともに高め合う子の育成 ～対話でつくる、分かる算数科授業をめざして～

II. 研究主題設定の理由

本校では昨年度、研究主題を「主体的に学び、ともに高め合う子の育成」、副題を「算数科を中心に一人一人が学びを実感する授業をめざして」とし、主体的な学び合いを通して、自分の学んだことや学び方に対して成長の実感や達成感をもたせる授業づくりをめざしてきた。

授業づくりでは、「意欲の喚起」「思考力・記述力・発表力の育成」「学びを実感できる振り返る活動」の3つを重点として、授業改善に取り組んできた。重点1の「意欲の喚起」では、問題提示の工夫やねらいとゴールの明確化を図った。重点2の「思考力・記述力・発表力の育成」では、図や算数用語を用いて、説明することを繰り返し指導してきた。また、重点3の「学びを実感できる振り返る活動」では、タイムマネジメントを意識し、ねらい達成に合った適用題や全校共通のシートによる振り返りを行った。

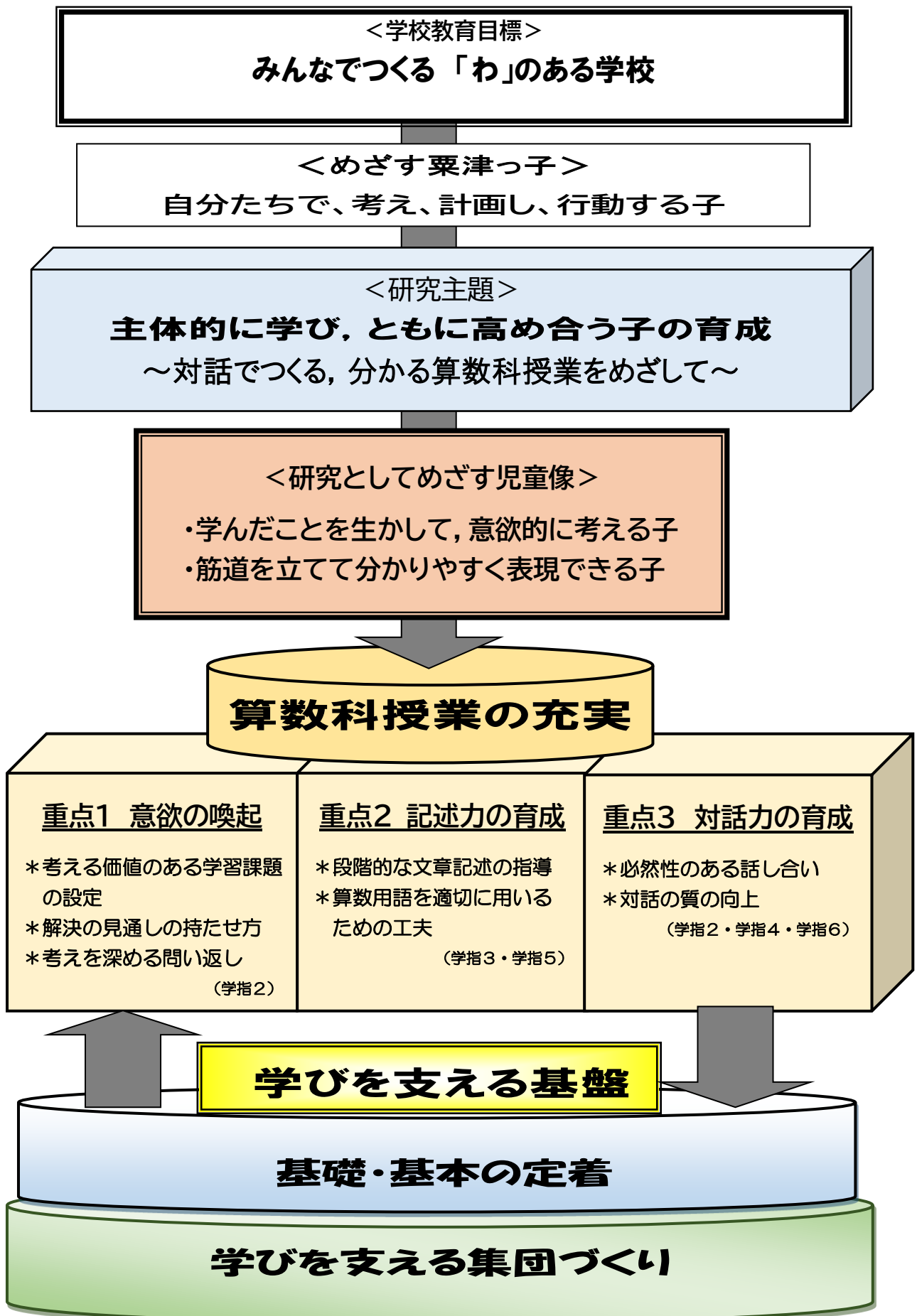
これらの授業改善の取組により、学級全体で課題解決に向かう児童の姿が見られた。また、振り返る活動の充実を図ることで、教師は一人一人の学びを見取り、次時への指導につなげることができた。

一方、自分の考えを発表することはできても、相手に分かりやすく説明したり、友達の考えを聞き、考えを深めたり広げたりする力は十分とは言えないのが現状である。

そこで、今年度は本校の課題である、「説明力」および「対話力」の育成を重点に授業改善を進めることにした。「説明力」の育成では、筋道立てて考えを文章に書き表す力（記述力）と相手に分かりやすく伝える力（発表力）の双方の力の向上をめざしていく。「対話力」の向上には、説明力が土台となると捉え、筋道立てて考えを書いたり話したりする「説明力」を付けることで、友達に考えを伝えたり質問したり、新たな考えを導いたりするなど、「対話力」の向上をめざしていきたいと考えた。さらに、対話だけにとどまらず、説明力および対話力の向上を図ることで、どの子も「分かる」算数科授業をめざしていく。

これらの理由から、研究主題を昨年度に引き続き、「主体的に学び、ともに高め合う子の育成」とし、副題を「対話でつくる、分かる算数科授業をめざして」と設定した。

Ⅲ 研究全体構想図



IV 今年度の研究の方向

1 対話を通して、学びを実感できる授業づくり

- (1) 重点1 意欲の喚起
- (2) 重点2 記述力の育成
- (3) 重点3 対話力の育成

2 学びを支える基盤づくり

- (1) 基礎・基本の定着
- (2) 学びを支える集団づくり

V 研究内容

1 対話を通して、学びを実感できる授業づくり

授業づくりのポイント

◆重点1 意欲の喚起 (学指2)

- 考える価値のある学習課題の設定
 - ・ねらい達成につながり、児童が「考えたい」と思える学習課題を設定する。
 - ・ゴールの姿を明確にし、児童と共有する。
- 解決の見通しの持たせ方
 - ・既習事項をもとに、解決の方法や予想を立てさせる。
 - ・既習事項を掲示し、活用を促す。
- 考えを深める問い返し
 - ・ねらいに迫るための発問（問い返し）し、話し合いの活性化を図る。

◆重点2 記述力の育成 (学指3・学指5)

- 段階的な文章記述の指導
 - ・記述の方法を段階的に指導する。
〔例〕*文型を提示する。*書き出しを与える。*キーワード（算数用語）を提示 など
- 算数用語を適切に用いるための工夫
 - ・フラッシュカード等を用いて復習をする。
 - ・算数用語を入れて説明させる。

◆重点3 対話力の育成 (学指2・学指4・学指6)

- 必然性のある話し合い
 - ・話し合う目的を明確にする。
*考えを明確にするため *理解の確認をするため *思考を広げるため
*1つの考えに練り上げるため *新しい考えをつくり上げるため など
- 対話の質の向上
 - ・国語科を基盤として学んだ「聞き方・話し方・話し合い方」を活用する。
 - ・互いの考えに質問する。

2 学びを支える基盤づくり

◆基礎・基本の定着

基礎・基本の徹底の育成 (学指8)

- 学習規律の定着
 - ・基本的な聞き方や話し方，話し合い方
 - ・学習の準備
 - ・姿勢
- 個に応じた学習
 - ・必要な児童に適時，学習補充や発展学習に努める。
 - ・チャレンジタイムで，個の力を伸ばす。(1・2・3年)
- 読書活動の推進
- 計算マスターによる知識・技能の定着
- 漢字・計算ばっちりテストの実施
- 保護者・地域との連携(家庭学習の充実)
 - ・「家庭学習の手引き」を配布し，学年に適した家庭学習の内容の充実を図る。
 - ・自学ノートには，めあてや振り返りを書き，主体的に取り組めるように工夫する。
 - ・パワーアップ週間を設定し，全校で推進する。

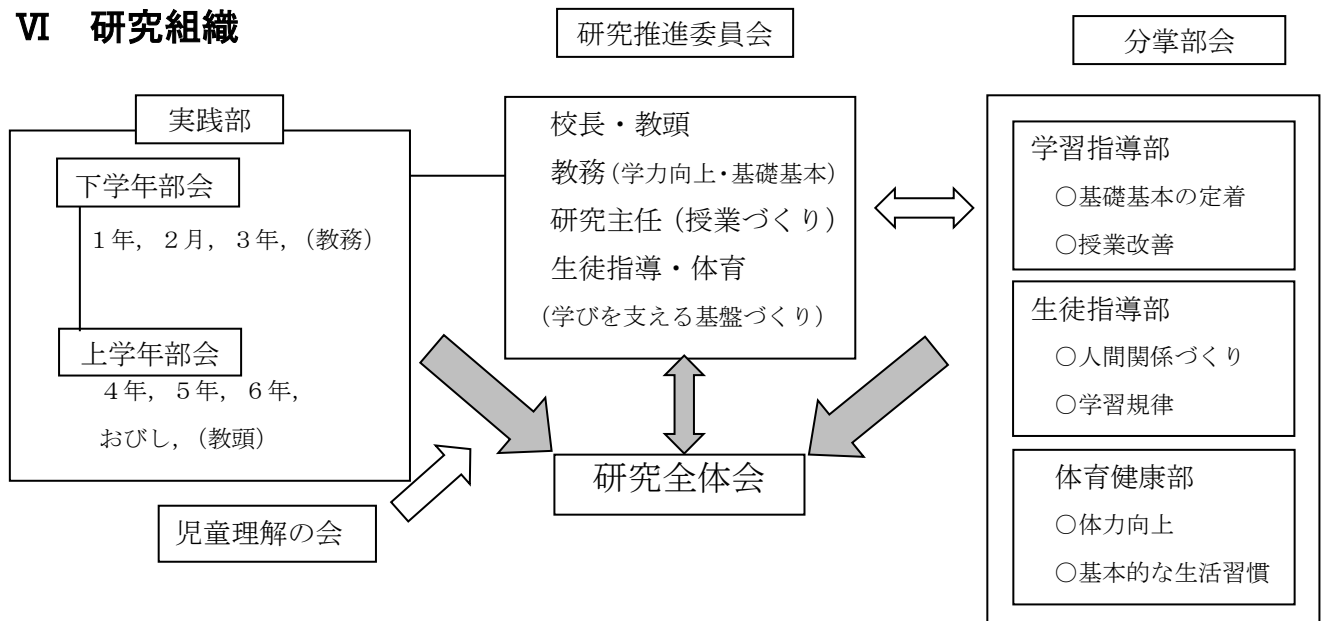
発表力の育成

- 声のものさしの活用
- 児童集会(振り返り)や学年発表
- スピーチ活動・詩の群読

◆学びを支える集団づくり

- 自他ともに認め合えるよりよい人間関係づくり
 - ・一人一人が活躍する場の設定をし，場面に応じて「つなぐ・いかす・認める」働きかけを行い，児童に安心感を与える。
 - ・年度当初，また年間を通して，挨拶・言葉遣いについて継続して指導する。
(目を見て挨拶，丁寧語，「はい。」の返事，「〇〇さん，～しましょう。」など)

VI 研究組織



VII 研究計画・研究経過 (学指10)

一人一研究授業を行う。指導案検討など事前研究や模擬授業は部会または全体で行い、授業整理会は全体で行う。授業整理会では、授業を見る視点に沿ってワークショップ形式で行い、研究の取り組みをふり返り、授業改善を進める。

月	研修会・研究授業・内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の計画や方向および取り組み方法を確認 ・粟津っ子学びのスタイル確認 ・提案授業 (年) /
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習パワーアップ・自学紹介(中間)・ノート展示① ・研究授業 (年) /
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問 (年) / ※未定 ・家庭学習パワーアップ・自学紹介(期末)・ノート展示②
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 (年) / ・「学ぶ力を高めよう」アンケート①
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 (年) /
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習パワーアップ・自学紹介(中間)・ノート展示③ ・研究授業 (年) /
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習パワーアップ・自学紹介(期末)・ノート展示④ ・研究授業 (年) /
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 (年) ※校内研修サポート事業 / ・「学ぶ力を高めよう」アンケート②
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめと検証(成果と課題) ・今年度の反省
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習パワーアップ・自学紹介(期末)・ノート展示⑤ ・「学ぶ力を高めよう」アンケート③
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の方向性の確認